

平成30年7月12日

日本原子力発電株式会社
東海第二発電所長 殿

東海・大洗原子力規制事務所
統括原子力運転検査官 梶田 啓悟

安全文化・組織風土劣化防止に係る取り組みの総合評価について(指導)

平成29年4月1日から平成30年3月31日に行われた、東海第二発電所における安全文化醸成活動については、以下のとおり評価しましたので通知します。取り組み要請事項については、確実に実行されるよう求めます。

記

【取り組み要請事項】

コミュニケーションの不足に起因するヒューマンエラーに端を発する不適合が散見されることから、ベンダー等も含め、お互いが完全に理解するまで意思疎通を図り、良好なコミュニケーションの更なる向上に努めて戴きたい。

不用意・不注意による、或いは注意していたが具体的な防止策のないまま作業を進めたことによる計器・配管等の損傷や誤ったポンプの切替え等、リスクを想定し事故を未然防止する姿勢に課題が見いだせることから、学習する組織として、事故・故障等の未然防止に取り組む組織として技術力の維持・向上に努めて戴きたい。

【奨揚がふさわしい取り組み】

毎月の幹部パトロールの結果として、良好事例を抽出して掲示していることは、社員にポジティブに受け取られ、社員の意識向上に貢献していると認められる。

階段や高所の手すりの隙間を埋めて、落下防止に努めている。常設の手すりについては、法令上の規程がないところ、仮設手すりの規程を超える対策を施しており、事故・故障等の未然防止に取り組む姿勢の向上になると期待できる。

平成29年度は新たな試みとして、安全文化を背景にした行動指針を10の特性、40の要素に分類し、より系統だった具体的な取組が行われ、一層の態度意欲の向上が期待される。

【総合所見】

平成29年度の計画に掲げた安全文化・組織風土の劣化防止に係る取組みはすべて実施され、改善に向けた取組が継続されており、「計画に基づいた取組が行われ、改善傾向が見られる」と評価する。

一方、安全文化・組織風土の劣化兆候について、問題となる程の劣化は見られないものの、良好なコミュニケーションの不足によると思われるヒューマンエラーに起因する不適合が散見されること、リスクを想定し事故・故障を未然に防止することの出来る個々人の力量の維持・向上を計り、学習する組織として技術力の維持・継承が望まれること、平成29年度は新しい組織として新たな手法での安全文化・組織風土の劣化防止に係る取組を開始して間もないことから「さらに傾向を見るため継続した監視を必要とする」と評価する。

以上